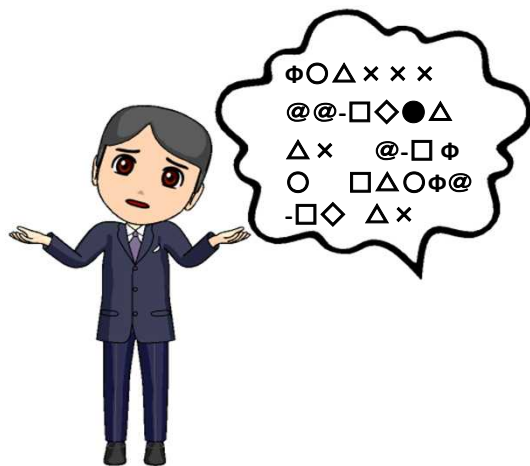


もしあなたが、
流ちょうには使えない言語の国で、
学校に行くことになったら、
どんな支援が必要ですか？



発達障がいのある 中・高校生への学習支援

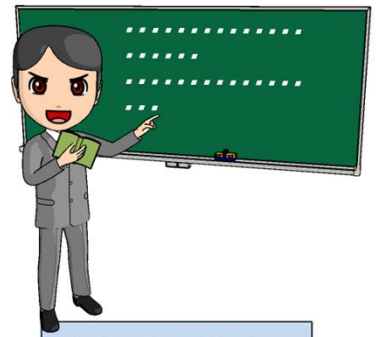
何となく話していることがわかる
周りの様子を見て何が起きているのかわかる
なのに、うまく説明できない...
理解しているのに読み書きや計算が苦手で、
時間内に答えることができない...
『情報をうまく活用できずに
実力を発揮できていない生徒がいます』



学習スタイルを認め
学びの多様性を活かした学習支援を！



『わかる＝内容を理解する』力と
『できる＝文章や式及び計算などを書いたり
解いたりする』力は、必ずしも一致しません。
『(話を)聞くこと』と『(板書を)書くこと』を
同時に行うことが困難な生徒がいます。



★内的要因

- ◆認知プロセス
 - 聴覚的な認知
 - 視覚的な認知
 - 注意
 - 記憶
 - など
- ◆モチベーション

★学力のアンバランス

聞くのは得意、読むのは苦手
話すのは得意、書くのは苦手
計算は得意、図形問題は苦手
英会話は得意、読むのは苦手

★外的要因

- ◆指導方法
 - 指導ペースが不適切
 - 指導内容が不明瞭
- ◆教材
 - 不適切及び欠如
- ◆学習環境
 - 教師との関係性

発達障がいのある生徒や
学習不振にある生徒は、同時に複数の
作業を行うために注意力をコントロール
する機能※が、うまく働いていないことが
わかってきました。(※ワーキングメモリー)
学力のアンバランスの背景には、
習う側、教える側双方の課題が影響して
いることが考えられます。
集中していない状態を、「努力してい
ない、やる気がない、怠けている」と注意
しても、生徒の意欲は低下するばかりで、
本人が苦戦していることへの解決には
つながりません。



中学校になると、学習内容が
広範囲で複雑になり、より抽象的な
思考が必要とされます。
頭の中で色々な知識や情報を思
い出し、組み合わせながら、逐次、
それらを文章や式・計算に変換して
書き表す力が必要です。
脳の情報処理に何らかの偏りがある場合、
入力と出力にアンバランスが生じます。
知的に遅れがなくても、読み書き
に困難を抱える生徒がいることを
知っておきましょう。

種類

言語理解
空間推理
作動記憶
処理速度など



方法

判別・照合
分類・体系化
モニタリングなど

参考及び図版引用：
『軽度発達障害の教育
-LD・ADHD・高機能PDD等への特別支援-』
上野一彦、花熊 暁 編 日本文化科学社 (平成18年)

こんな支援があったら よかった・・・読むこと書くこと

読む

- ルビがあったら・・・(新出漢字だけでなく)
見え方の違いからルビが読みの妨げになる場合もあります
- 前もって音読の範囲を教えてもらえたら・・・
授業中、いきなり当てられて困りました
- はじめに範読で正しい読み方を教えてもらえたら・・・
正しい読み方を音で聞けば、書いてあることの意味がわかります
- 教科書に文節や文の切れ目がわかるようにスラッシュ等の記号が入っていたら・・・
自分では、どこまでが文のまとまりか判別するのに時間がかかります
- 読む前に、内容についておおまかに教えてもらえたら・・・
あらずじや登場人物の関係がわかっているとなんとか読み続けられます
- 読み上げソフトなど、文章を聞いて読むことができたなら・・・
音で聞けばわかるので、集中して内容を味わうことができます
- 音読の時に、黙読をしても認めてもらえたら・・・
音に変換するのが精一杯で、音読しても内容が十分に理解できません
- レイアウトやフォントを読みやすく変えてくれたら・・・
縦書きか横書きか自分が読みやすいレイアウトや、フォントの種類、サイズも読みやすい形や大きさがあります

書く

- 書く量を少なくしてもらったら・・・
板書を書き写していたら、先生の話に集中できません
- ノートが書き込み式のワークシートだったら・・・
板書とワークシートのレイアウトが同じだと、書き写しやすいし、大事なところもすぐにわかります
- 長文を書くときには、ワープロを使えたら・・・
内容を考えながら、同時に漢字や適当なことばを思い出して書くことは、とても時間がかかり、書きたいことがらが文章にできません
- 電子辞書や携帯端末のメール機能が使えたら・・・
その場ですぐに調べられ、検索などの機能を自分が使いやすいように設定できます
- メモを写真や録音で記録できたなら・・・
聞きながら同時に書くことが難しいです。後で見直すのを忘れてたり、見直しても何を書いたのか自分でも判読できない場合があります
- 左利きに配慮したレイアウトにしてもらえたら・・・
書くことだけでなく、はさみ等の道具も右利き仕様だと作業しにくいです

学びの多様性を認め合う環境作りを！

～授業のユニバーサルデザインと合理的配慮をすすめてみましょう！～

※ 日々の実践を振り返ってみましょう～各項目の□にチェックしてみましょう～

シンプル(焦点化)

～何に注目したらよいか、そのための環境作りは～

① 教室環境の整備

- 教室美化 黒板周辺の整理(掲示物) 黒板周辺の整理(棚など)

② 授業の構造化(パターン化)

- 授業ルールの明示 活動の流れの提示 学習目標の提示
 活動時間の提示(タイマーなど) 評価手段と基準の明示

③ 教材の工夫

- 教材の絞り込み ワークシートなどのプリント作成 個別の手立ての準備

ビジュアル(視覚化)

～一斉指導の中で情報をわかりやすく伝えるために～

① 板書の工夫

- 文字の大きさ 色チョークの使い分け ルビを打つ
 板書量の考慮 板書スピードの考慮 ワークシートの活用(板書と連動した)

② 聴覚情報の可視化

- 指示・説明を文章や絵で提示 活動の手引き(マニュアル・ガイドブック)作成

③ 視覚情報の言語化

- 文字情報を読み上げる 図や絵をことばで説明する(仕組み・ポイントなど)

④ 教材の工夫

- 口頭指導を減らす 視覚教材の活用 ICT機器の活用

シェア(共有化)

～一斉指導の中で一人一人の良さをひきだすために～

① 安心できる学びの場の設定

- ルールやマナーの明示 生徒をほめる 生徒の発言をいかす

② 多様な学びの場の設定

- ペア学習や班学習を取り入れる ロールプレイや劇活動を取り入れる
 発表の工夫(ポスター発表やICTでのプレゼンテーション)
 多様な評価手段の工夫(口頭試問やプレゼンテーション、実技テストなど)
 パソコンやタブレット等のICT機器の活用

合理的配慮

～特別な支援ニーズの充足に向けて～

① 個のニーズの把握

- アンケート等による生徒のニーズ把握 定期的な保護者との情報交換

② 教材・教具の工夫

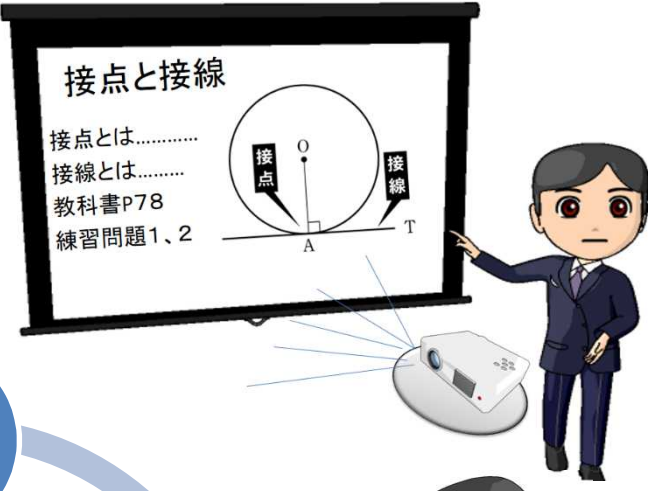
- 個に応じた教材(拡大・色や字体、レイアウトの変更)
 個に応じた教具(キーボードによる文章入力、ボイスレコーダーでの録音、カメラによる板書記録等)

③ 個に応じた評価

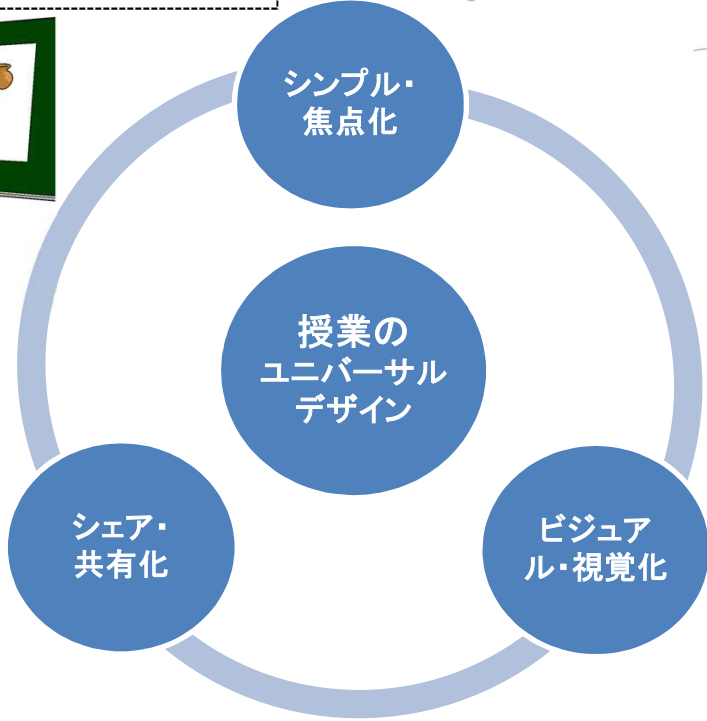
- 問題文の代読 代筆による解答 実技や作品提出等による代替評価

第2年社会科		学習目標 ・○○○○○○○○○ ・△△△△△△△ ・□□□□□□□				
授業の進め方	・○○○○○○○○○ ・△△△△△△△ ・□□□□□□□	家庭学習の進め方	・○○○○○○○○○ ・△△△△△△△ ・□□□□□□□			
評価の基準・テスト計画	・○○○○○○○○○ ・△△△△△△△ ・□□□□□□□					
授業計画						
月	単元	学習内容	ポイント	学習道具	家庭学習の ヒント・参考情報	
1 学期	4	1章 世界のすがた	・○○○○○○○○○ ・△△△△△△△ ・□□□□□□□	・○○○○○○○ ・△△△△△ ・□□□□□	教科書 地図帳 資料集 ノート	・○○○○○○○ ・△△△△△ ・□□□□□
	5	2章 世界各地の 人々の生活と 環境	・○○○○○○○○○ ・△△△△△△△ ・□□□□□□□	・○○○○○○○ ・△△△△△ ・□□□□□	教科書 地図帳 資料集 ノート	・○○○○○○○ ・△△△△△ ・□□□□□

見やすい板書を作るために、プレゼンテーションソフトを使ってみるのは有効です。文字情報と図や絵、動画などの視覚情報をタイムリーに提示することができ、情報の変更や追加も簡単です。また板書を印刷してレジュメや学習プリントに活用できます。



授業のシラバスを作成することで、学習に見通しをもち、計画的に家庭学習に取り組む力を身につけさせることができます。



学習の目的は、学んだ知識や技能を自分が必要な時に活用できるようにすることです。書くことが苦手な生徒も、発表や口頭試問であれば、自分の学んだことがらを表現することができます。暗記が苦手な覚えられないために、正しく書くことができない。そのことで実力が発揮できずに、学習への意欲が低下している生徒がいます。評価の方法も多様性が望まれます。



聞くことや書くことが苦手な生徒は、記憶することに弱さがあります。そこで記憶することを補うために支援機器を使って学習するやり方はとても有効です。支援機器を使うことで、内容理解に十分時間をかけることができ、作文の遂行や計算過程の見直しなど自分で課題解決に向かって学習を深めていくことができます。PCやタブレットの音声読み上げ機能、ワープロ、ボイスレコーダー、電卓などの活用をすすめましょう。

印刷物での読書が苦手でも、PCやタブレットで読めるマルチメディアデージーなどの電子図書を用いれば読書が可能になり、自分で必要な情報を必要な時に手に入れることができます。



入学試験の取組から

～大学入試や高校入試における受験上の合理的配慮～

センター試験での取組

○ 大学入試センターでは、受験上の合理的配慮を行っています。

『受験上の配慮申請書』提出等の必要な手続きを行った後、配慮が必要と認められた場合、以下のような合理的配慮を受けることができます。

独立行政法人 大学入試センター

『平成26年度障害等のある方への受験上の配慮』 より抜粋

◇ 発達障がいの場合

・ 試験時間の延長 (1.3倍)

・ チェック解答

※チェック解答用紙に受験者が選択肢の数字等をチェックする

・ 拡大文字問題冊子の配布 (一般問題冊子と併用)

※一般問題冊子と比べて、文字の拡大率が1.4倍(14ポイントのゴシック体)、面積倍率が2倍

・ 注意事項等の文書による伝達

※試験室で監督者が口答で指示することを文書にし、受験者に配布

・ 別室の設定

※別室が必要な理由が明記された「医師に診断書(障がいの区分に応じたもの)」を提出

・ 試験室入り口までの付添者の同伴

◇ その他の配慮事項

・ トイレに近い試験室での受験

・ 座席を試験室の出入口に近いところに指定

※ 詳細は『独立行政法人 大学入試センター』のHPを参照して下さい。

<http://www.dnc.ac.jp/center/faq.html>

高校受験においても読み書きに困難のある生徒に対して、別室を設定し、試験監督者が問題文を読み上げ、本人が解答した内容を代筆する等の合理的配慮が行われています。受験上の合理的配慮の多くは、中学校で取り組まれた支援が評価され、本人が実力を発揮できるように必要であると認められた配慮です。

生徒一人ひとりの特性に配慮し、学びの多様性を認めていくことは将来の進路選択に大きな影響を及ぼします。日々の授業における合理的配慮を見直し、できることから始めていきましょう。





学校で取り組める 合理的配慮について 考えてみましょう

参考: 文部科学省HP

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1297380.htm

特別支援教育の在り方に関する
特別委員会

○ 配付資料 合理的配慮について
別紙2「合理的配慮」の例

学習支援について 授業の中で取り組める事を 考えてみましょう

参考: 発達障害教育情報センター

<http://icedd.nise.go.jp/>

独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所

[PDF]小・中学校等における発達障害のある
子どもへの教科教育等の支援

<http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/403/c-83.pdf>



先進的な取り組み

参考: DO-IT Japanプログラム

DO-IT (Diversity, Opportunities,
Internetworking and Technology) Japan

<http://doit-japan.org/doit/index.php/>

東京大学先端研が主催する全国から選抜された

障害のある小中高校生・高卒者、大学生の

大学進学や就労への移行支援を通じて、

将来の社会のリーダーとなる

人材育成を目指しています。



ICTの活用

○ 発達障がいのある子供たちの
ためのICT活用ハンドブック

参考: 文部科学省「教育の情報化」

http://jouhouka.mext.go.jp/developmental_disorder_ict_katsuyo.html

○ マルチメディアデイジー教科書

参考: 日本障害者リハビリテーション協会

ENJOY DAISY

<http://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/daisytext.html>

作成: 福岡市教育委員会発達教育センター

平成26年3月

<http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/hattatuc/>